

令和7年度 第2回守山市健康づくり推進協議会

日時：令和8年2月10日（火）

午後2時から午後3時30分まで

場所：守山市役所3階33・34会議室

1 出欠状況

(1) 出席者（11名）

岡村会長、福田副会長、坪田委員、間下委員、淵上委員、藤本委員、今井委員、川田委員、吉村委員、植村委員、今津委員

(2) 欠席者（7名）

朝見委員、田中委員、中井委員、小林委員、岡田委員、遠藤委員、松浦委員

(3) 事務局

健康福祉部 武内部長、遠山次長

すこやか生活課 今江課長、市川参事、阿部係長、百田主査、岩波主査、
岩砂主任保健師、豊島栄養士、井上歯科衛生士

(4) 傍聴者 1名

2 内容

(1) 開会

(2) 協議事項

令和7年度の主な取組および令和8年度の取組予定について（P4からP6まで）

発言者	内容
事務局	資料1（P4からP6まで）について説明
坪田委員	新しく実施している2歳6か月児健診での保護者向けの歯周病リスク検査（以下、「保護者向け歯周病リスク検査」）の取組だが、とても良い取組である。歯科受診のきっかけとして、むし歯と歯周病の二つが多い。2歳6か月児健診対象の保護者であると、むし歯のリスクは低い年代である。歯周病となると20歳代から40歳代は罹患していても気づかない人が多い。また、歯石は年齢関係なく歯に蓄積し、歯周病のリスクとなる。歯石は自分では落とせないため、この年代の方も積極的に歯科受診をしていただくことで、将来の歯

	<p>周病発症リスクを下げるができる。</p> <p>保護者向け歯周病リスク検査では、98%の方にリスクがあると出ているが、この年代は歯周病リスクも高まる年代ではあるので、妥当と考える。</p> <p>また、すこやか歯科健診がきっかけであっても、レントゲン等の医療行為をした場合には医療と取り扱っている。</p>
吉村委員	<p>保護者向け歯周病リスク検査は、良いアイデアであると思う。子どもを連れてくる保護者に向け一声かけて受診を啓発する手法は、参考にできると思っている。</p> <p>しかし、乳幼児健診に来る保護者は女性が多いと思われ、保護者向け歯周病リスク検査を受ける人は女性に偏るのではないか。男女ともに歯周病リスク検査を受ける機会があるとなお良いと思う。</p>
岡村会長	<p>受診してほしい人が来るところに参入していくのは、非常に良いアイデアである。また、保護者向け歯周病リスク検査を受けた人が配偶者に展開していく手法もあると考える。</p>
福田副会長	<p>歯科医院の新規開業される場合、小児歯科を標榜される方が多いと思うが、待合室などで子どもが遊べるスペースなどがあるのか。</p>
坪田委員	<p>新規開業を方もされていることは、既存の歯科医院と大きく変わらないと思う。院内に子ども向けの特別な設備があるという訳ではないと把握している。</p>

令和7年度の主な取組および令和8年度の取組予定について（P1からP14まで）

発言者	内容
事務局	資料1（P1からP14まで）について説明
淵上委員	<p>農林水産省で食育アンケート調査を実施している。農林水産省のアンケート結果では、朝食・夕食を共食している家庭は、共食していない家庭に比べて食育に関心があり、食文化も継承しているとある。守山市もアンケート調査をしていたら共食についての結果を教えてください。郷土料理のアレンジレシピの普及であるが、ゲートキーパー普及動画をYouTubeで配信しているように、郷土料理もYouTubeを活用してはどうか。また、郷土料理の掘り起こしとして、「郷土料理と私」というタイトルでエッセイ募集をするのはいかがか。</p>
事務局	<p>共食をしている人のアンケート結果についてであるが、令和4年度に実施した市民アンケートでは、共食についてのアンケートは国と同じ項目では実施できていない。そのため、第3次健康もりやま2</p>

	<p>1の目標値を定める際に、現状値としては国の値を参考値として掲載している。現計画最終年度には、75%以上にしたいと考え取り組んでいく。委員ご指摘のとおり、食育に興味がある人も共食の取組を実施することで増加が見込めると考えている。</p> <p>レシピの普及では、YouTubeの活用を今後は検討する。</p> <p>郷土料理のレシピは、レシピを考えていただく際に滋賀県の琵琶湖は特色があるもので、その中の湖魚を使った料理は必ず作っていただきたいとセトレマリーナびわ湖にお願いし、ゴリのポテトサラダを作っていただいた。</p> <p>エッセイの募集についても、郷土料理に親しみを持っていただきたいと思っているので、自分のことと考えていただけるような取組は今後も検討していきたい。</p>
<p>淵上委員</p>	<p>守山市も滋賀県も郷土という考え方ができる。滋賀県の郷土料理は農林水産省のホームページに掲載されている。鯖そうめんやゴリなどがあり、滋賀を郷土と捉え普及に努めて欲しい。伝統料理はその地域の特別の行事や祭礼に結びついていることが多い。行事や祭りが開催される時期に、郷土料理・伝統料理を食べるイベントの実施や、祭りの見学を含めたウォーキングイベントを企画すると広まるのではないか。</p> <p>以前、県の近江商人事業に関わっていたことがあり、近江商人の発祥地の見学ツアーを実施した。近江八幡市や高島市、日野町を巡ったが、地元の商工会や婦人会とタイアップして、郷土料理を食べていただく機会を設けると大変好評であった。</p>
<p>今津委員</p>	<p>野菜たっぷりレシピ集や郷土料理等アレンジレシピ集を見て、守山市から多く出荷している野菜が入っていないなという感想である。今後レシピ集を作成される際には、守山産野菜を反映していただきたい。また、果樹が含まれていない。守山市でも果樹に取り組んでおられる方も多くおられる。郷土料理とは違うかもしれないが果樹も今後レシピに加えていただきたい。</p>
<p>福田副会長</p>	<p>アルコールの件で、20歳のつどいで配布されているマスクに記載されているアルコールの推奨量は、「一日1単位以下」とあるが、資料には「男性2合、女性1合」と記載されている。資料の作り方が統一されていない。また、たばこの場合、20歳未満が禁止されているのは、肺は18歳まで成長するためたばこの害がその年齢までおよぶ。そのため、たばこは20歳からとなっている。お酒についても、</p>

	どうして 20 歳からなのかが納得できないと、こどもたちの理解も難しいのではないか。
事務局	今後の資料作成はわかりやすいものとする。 アルコールについては、国の健康日本 21 でも 20 歳からと記載されており、法律に基づき、20 歳未満の飲酒をしないように取組を進めている。国の施策と合わせながら、市の取組も進めていく。また、飲酒に関するデータを確認しながら、こどもたちに分かりやすい取組を進めていく。
岡村会長	若い人の飲酒については、事故や急性アルコール中毒、救急搬送までつながっているので、幅広な啓発が必要だと思う。
事務局	今後のアルコール啓発は、様々なアプローチ方法で実施していきたい。
岡村会長	郷土料理の取組をはじめとして、今後どのように普及していくかが大事。委員からいろんな媒体の活用の話も出ていたので、どのように展開していくかを考えながら普及啓発に努めるように。

令和 7 年度の主な取組および令和 8 年度の取組予定について（P15 から P28 まで）

発言者	内容
事務局	資料 1（P15 から P28 まで）について説明
渕上委員	ゲートキーパー研修について、新任民生委員に向け研修をしていただけるとのこと、有難く思っている。事前に厚生労働省や守山市が作成しているゲートキーパー研修の動画があることを民生委員、児童委員には伝えている。早めに新人研修担当者と研修実施に向けて調整してほしい。
間下委員	25 ページで、ゲートキーパーの新規実施の部分で、薬剤師に向け「市内の薬剤師に対し、薬の手渡しの際にこころの悩みを抱える市民に気づき、適切な相談窓口につないでもらうことを目的に実施。」とあるが、市の方で啓発物品等を作成いただける認識でよいか。
事務局	予定としては、こちらが作成した資料を配布し、グループワークも実施したいと思っている。
間下委員	こころの悩みを抱えている人というのはたくさんいると思うが、最近問題になっているのが、睡眠薬を各病院渡り歩いて大量にもらっている人がいる。マイナンバーによって、いろんな病院で処方されていることが分かるようになってきた。市内病院を回って処方してもらおう方もおられれば、オンライン診療で処方箋を貰って守山市内

	の薬局で処方をしてもらっている方もおられる。市と協力しながら、何らかの対策が必要と考えている。
福田副会長	薬に対する考え方が医師によって異なる現実がある。
岡村会長	医師会と薬剤師会で情報共有されているので、睡眠薬の多量処方については連携が進んでいくと思われる。
福田副会長	ゲートキーパーの人数が増加しているが、平成 24 年からの累計である。これまで受講された人のうち、実際に活動されている人は何人いるのか把握しているか。
事務局	把握していない。 資料に記載しているのは、研修を受けられた人の累計を記載している。ここ数年で毎年実施しているのは教員向けにゲートキーパー研修を実施している。教員に実施をすることで、20 歳代から 60 歳代までの幅広い年齢層の方に受講いただいていると考えている。
植村委員	今年は、夏休みにゲートキーパー研修を実施していただいた。こどもからの相談を聞いているときに、こどもから「自分なんかいなくなればいい」という言葉で、自分の苦しみを表現することや、死を連想するような言葉を聞くことがある。「それぐらい辛い気持ちである」ということを分かる必要があるが、受け止める側にもこころの余裕やスキルが必要である。若く経験の浅い教員も増えており、こどもの SOS を正しくキャッチできる方法を知るための手段として、ゲートキーパー研修が必要であると考えている。
福田副会長	こどもは教員が、大人は民生委員が対応されている。民生委員は数が減っているので、大変な状況だと思う。
淵上委員	悩みがある人のお話は、傾聴している。それでも普段と違う様子が見られた場合には、民生委員は悩んでいる人の問題を解決することはできないので、すこやか生活課などの適切な機関に相談するように促している。
岡村会長	ゲートキーパーの養成はとても大事なこと。自殺者の統計は市町村単位になると差が大きく出てしまうので、自殺対策の指標の一つとしてゲートキーパー養成数が大事になってくる。どういう方に実施したかは把握しているのか。
事務局	対象者と参加者数は把握している。
岡村会長	今後は、どのような方が実際に稼働しているかを把握する手段は必要と考える。育ちの世代、はたらき世代、みのりの世代の 3 世代を相手にするゲートキーパーがそれぞれ必要と思うので、どの人を対

	象にするかの把握が必要。
吉村委員	ケアマネージャー、介護保険の事業所や訪問・通所のサービス事業所で働く人には、是非ゲートキーパー研修を受講してほしい。守山市で働いている人と限定しないのであれば、私の所属先で主催して実施し、講師として守山市から来てもらうことも可能であるが、参加される人を守山市の事業所や守山市民に限定することは難しい。郷土料理や野菜たっぷりレシピの展開も可能。
藤本委員	健康推進員として、小中学校向けに朝ごはんの重要性を啓発するパンフレットを配布している。忙しい家庭であると、朝ごはんを提供することが難しいと言われることがある。野菜の啓発は、おうみんちを借りて、実際におうみんちの利用者と会話しながら啓発している。
川田委員	食育プログラムを各園持っている。当園は毎年1回は保護者に食育アンケートを実施している。対象者は毎年変更している。「朝食を食べていますか」という設問を設けている。園から「朝食を食べましょう」と案内するよりも、アンケート結果を出すことで啓発になっている側面がある。実際に登園途中の車でおにぎりやパンを食べて登園している子もいる。 学区の健康推進員には、発達年齢に応じた紙芝居、絵本、手作りエプロンシアターなどで歯をはじめとした、健康に関する取組をしていただいている。
岡村会長	こどもに健康教育を実施すると、大人にも普及するので取組は継続していただきたい。
淵上委員	郷土料理に関して、一つの観光資源として啓発していくのがよいのではないか。商工会議所との連携が必要かと思うが、普及啓発の一つとして検討いただきたい。
岡村会長	健康づくりは多方面に絡む。色々な関係機関と連携ができているのが守山市のいいところである。健康に関することはすこやか生活課だけが実施するのではなく、他の部門との連携が必要であるし、この協議会に参加されている団体の協力があってこそ推進されるものである。是非よろしくお願ひしたい。

(3) 閉会